

平成 26 年度第 2 回多文化都市八戸推進懇談会（平成 26 年 12 月 11 日）会議録

議題 1 多文化推進施策事業について

議題 2 （仮）文化のまちづくりビジョンについて

●事務局

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。時間になりましたので、ただいまから、平成 26 年度第 2 回多文化都市八戸推進懇談会を開会いたします。本日の議題につきましては、1 つ目は、多文化推進施策事業について、2 つ目は、仮称ですけれども、文化のまちづくりビジョンについて、委員の皆様にご審議いただきたいと思います。ここからは、内海会長に進行をお願いします。

●会長

それでは改めましてこんにちは。いよいよ師走です。報告事項がいっぱいあるようですので、その事業等について説明がたくさんあると思いますので、少しスピーディーに進めて、2 つ目の文化のまちづくりビジョンについてご意見等々頂戴したいと思いますのでよろしく願いいたします。それではお手元の次第に従いまして、進めさせていただきたいと思います。まず 1 番目ですけれども多文化都市推進施策事業について事務局から説明をお願いします。

●事務局

1 つ目の多文化推進施策事業については 30 分程度でご説明いたします。はじめに南郷アートプロジェクトについてご説明いたします。

●まちづくり文化推進室

担当からご説明いたします。今年度一年間、まだ終わっていないものもありますけれども、企画をご説明したいと思います。

南郷アートプロジェクトは今年で 4 年目ですが、今年の夏に、夏休みに閉所となった保育所を 3 週間ほど開き、子どもたちが来て楽しめる図書館やアーティストの合宿など、保育所を開いてアートプロジェクトを実施しました。

2 つ目は、映画を作ろうプロジェクトです。南郷では、来年度で 3 つの学校が統廃合、閉校しますが、1 校ずつ、思い出を残そうということでダンス映画を作ろうということになりました。9 月から、一月に 1 回ずつワークショップをやりまして、委員の嵯峨さんにも音楽を協力していただきまして、今、映画の撮影がすべて撮り終わり、来年 2 月に上映を予定しているところです。中野小学校の皆さんと学校内や地域の牧場などに出かけて、いわゆるロケをして、作品を作って上映することになっています。

また、10 月 5 日には、地元南郷にあります、荒谷えんぶり組の皆さんと世界を股に掛けて活躍してらっしゃる、白塗りで踊る舞踏というジャンルがありますが、大駱駝艦のカンパニーの皆さんが南郷のえんぶり組からえんぶりを習っていただき、独自の解釈で新しい作品を作って上演するとい

う取り組みをしました。実は、こちらは大変好評で、12月の半ばに、東京でも再演をすることが決まって、初めて、南郷アートプロジェクトで作った作品が南郷以外の、東京で上演されるという、八戸のえんぶりをアピールする機会を作ることができたものとなりました。

また、先週末にちょうど終えたものですが、ダンス公演「Dance×Jazz」がごございます。こちらは2日間行いまして、地元からは、ストリートダンスの One Move さんやピアノの蛇口由美子さん、Swingberry Jazz Orchestra といった、音楽やダンスの方々と、外からプロのダンサーの方々をお招きして、3つの作品を上演いたしました。雪が深かったので、集客には苦労しましたが、お客様には大変好評いただき、終わることができました。

これから実施するプロジェクトですが、年明けに、森下真樹さんという、毎年、南郷アートプロジェクトに関わっていただいている方と、南郷の地元の消防団を中心とて結成された沢代キュートンというちょっとおもしろいお兄ちゃんたちのグループと一緒に作品をつくって上演するというものが1月25日に行う予定になっております。また、この公演に関連して、森下真樹さんが、地元の小学校に出かけて、一緒に体を動かして遊ぶようなワークショップも予定しています。

年間を通して行っているものとして、南郷に移住したアーティストの山本耕一郎さんが、新しい人と人との関係を作る場として、山本さんのお家を会場に「バーすまもり」という企画も行っています。だいたい月1回行って、毎月、月替わりのマスターを決めて、その人が新たに南郷に人を呼び込んできて新しい人の出会いをコーディネートするという事業です。

また、関連プログラムとしまして、夏の南郷ジャズフェスティバルの中で、ドッキリ企画を実施いたしました。八戸の南郷アートプロジェクトに今まで関わってきた地元の音楽の皆さん150人でドッキリを仕掛けるという企画で、ジャズフェスティバルのオープニングの前にジャズを演奏するというのをやって、新聞でも大きく取り上げていただきました。他にも企画に関連して協力するという企画も実施しております。

来年度は5年目となりますので、ますますいろいろな人を巻き込みながら実施するとともに、その後の実施の方法についても検討できる年になっていければと思っています。以上です。

●まちづくり文化推進室

次に、八戸工場大学についてご説明いたします。八戸工場大学は、昨年から2年目の実施となりました。お手元に配布しているのは、受講生募集のパンフレット、これまでの事業経過、そして、1月に実施するアートプロジェクトの暫定版のチラシです。

パンフレットを開くと、「八戸工場大学とは」とありまして、3色の円「講義」「サークル」「課外活動」とあります。これが、事業の3本柱となっています。現時点で「講義」は終了しています。工場関係者やアート関係者を講師に、全6回実施しました。課外活動は船からの工場撮影を終了、12月20日に、JX日鉱日石LNGサービスさんの見学会を予定しています。「サークル」は、受講生や関わって頂いたアーティスト、工場と一緒に作り上げるアートプロジェクトです。

概要については、暫定版になりますがA3のチラシをお付けしています。2015年4月に稼動するLNGターミナルですが、年明け1月に試運転を開始します。液化天然ガスを運び込む外航船が入ってきますが、ガスを作る過程で出る余剰ガスがフレアスタックと呼ばれる煙突から炎が出るということで、その炎を見て楽しむイベントを企画中です。イベント期間は1月8日から12日、貿易セ

ンターにて実施する予定です。屋上の炎を見て楽しむ「タンク庭園」や、船から見るツアー、炎にちなんだトークイベントを実施することとなっています。

八戸工場大学は、大学に見立て、学長、助手、講師、アドバイザー、事務局と役割を決めて企画・運営していますが、今年度は、昨年、参加いただいた受講生の中から「助手」さんが3人増え、学長と合わせて6人に企画の段階から関わってもらうなど、活動に積極的な人が徐々に増えつつあります。

また、アートを活用して地域再生に取り組んでいる活動団体とのネットワークの場であるアサヒアートフェスティバルへの参加や観光コンベンション協会主催のモニターツアーへの協力、NHKの番組に出演するなど市外へも発信にも取り組んでいます。

●まちづくり文化推進室

続きまして、こちらの資料を元に、八戸ニューポートについてご説明いたします。

八戸ニューポートは、十三日町のフラワーエイトビル、1階にドトールさんが入っているビルの3階に拠点を構えまして、今年の11月1日からオープンしております。正式な事業名は、中心市街地アート活動促進リノベーション事業、少し長い名称ですが、何をやっているかといいますと、クリエイティブインダストリー、創造産業の分野を育成、支援し、また、八戸のこの地域でクリエイティブインダストリーが盛り上がることで、中心市街地の活性化を図ろうという目的を持って実施しているものです。

リノベーションとありますので、空き物件を改装して、そこに拠点を構えていろいろなプロジェクトを実施しているのですが、事業概要の一番下にありますように、事業アドバイザーとして東京の台東区でまちづくり会社ドラマチックという会社を運営されている今村ひろゆきさんを迎えて事業を運営しています。この方を簡単にご紹介いたしますと、空きビルをビルのオーナーから依頼を受けて改装し、シェアオフィスを運営しながら、そこを拠点にしてその周りのまち全体が盛り上がるようなイベントを仕掛けたり、まちの人がつながるようなプロジェクトを実施したりとかそういったことをやられている方です。

館内の設備は、3階のフロアを丸々お借りしまして、まず1つはシェアオフィスを4ブース設けております。窓側の広いスペースをイベントスペースとして設けていまして、ここでセミナーやイベントを実施しています。創作ルームとして、簡単な作業ができる作業テーブル4台を設けたスペースがございます。あとは、いつでも誰でも気軽に利用できるオープンサロンを設けています。

館全体の設備を活用して、シェアオフィスに入った方は、シェアオフィスで仕事をしながら自分のスキルアップのためのセミナーへ参加できますし、ここに集まる人のネットワークを通して自分の活動の幅が広がるというパッケージで、主に八戸のクリエイターを応援する目的で実施しています。

「ニューポート」と港になぞらえています。昔から、港町八戸として、人が集まってそこで学び育ちつながり、出港していくという港の機能になぞらえて、このニューポートでは、人が育ち、つながり、新たな商品や活動がここから出て行くというコンセプトで運営しています。

その一環で、1つ目のプロジェクトが、「八戸ヒト・コト・モノ帖プロジェクト」で、八戸の地域資源に光を当てて、全国に発信していこうというものです。ゆくゆくは、八戸のクリエイターの情

報が網羅された雑誌を出版して全国発信していきたいと考えています。

また、トークシリーズ「はじまりのハナシ」では、地域のユニークなオリジナルの活動をしている方にスポットをあてて、その方にその活動が始まったきっかけ、あるいは、その商品を作ったきっかけの話をしていただくというトークイベントですが、誰もが興味がありそうな「はじまりのハナシ」を聞き、参考にするというものです。

さきほど申し上げたとおり、クリエイターのスキルアップにつながるような講座やアートに携わる方主催のワークショップをメインにしたスキルアップ講座を実施しています。

最後に、人が繋がる仕組みを作ろうということで、いろいろなジャンルの方が一同に会して交流を図れるような異業種の交流イベントも企画しています。それぞれの活動の写真をつけています。

次に、チラシを2枚お付けしていますが、茶色のチラシが「八戸ヒト・コト・モノ帖プロジェクト」です。一番下にあるものは、本日6時半から、ユキパルという雑誌を作っているライターの馬場美穂子さんを講師に招いて実施する「聞き上手はもてる 知って得するインタビューのコツ」です。有料になっていますが、本日夜に講座を用意しています。

それからもう一枚ですが、「はじまりのハナシ」のチラシですが、これまでに2回実施しています。1回目が南郷の nikoniko にんじんジュースで有名な南風農園さんをお呼びして、農業やにんじんジュースのはじまりの話をしていただきました。2回目は、12月4日に、八戸出身のDJの阿保かずひろさんをお呼びしました。この方は、幼稚園や保育園、学校、施設などでDJとして活動していますが、なぜその活動を始めたのかという話をお伺いしました。こういった活動を通じて、地域のクリエイティブインダストリーが全体的に盛り上がっていくことを目指して進めています。以上です。

●事務局

続きまして、美術館からお願いします。

●美術館

美術館から、今後の予定ということでご報告します。12月20日の土曜日から、動物写真家の岩合光昭さんの写真展、今回は猫に焦点をあてたねこ展が始まります。それに関連して、今回様々な試みをしていますのでご紹介します。

展覧会というと、会場に展示して、それを見に来ていただき終了ということが多いのですが、ここ2、3年で取り組んでいるのが、半券を持ってまちに行くといろいろなサービスが受けられるという取組みで、まちづくり文化推進室と連携してやっています。そのほかに、今年から参加型ということで、猫を飼っている方を中心に我が家の猫や野良猫の写真を1枚持って来ていただくと展覧会に招待するということをしています。持って来ていただいた写真は、展覧会の期間中にロビーなどに展示して、来た方に見ていただきま。あとは、中心街で猫に関連したグッズを扱っているお店の情報を美術館で紹介をするとともに、そのお店の中には、美術館のねこ展パンフレットをモチーフにしたコップや案内板をお店の中においていただくということで、協力いただけるお店をリサーチしています。美術館に来ていただいて、お店のリストをみて行ってみようかなという方や美術館の展覧会を知らずにお店に行って情報を掴んでもらうという双方向の試みを2点行っています。今

後も商店街との取組みができる展覧会もあれば実施していきますが、そういったことが難しい展覧会もありますので、親子向けとか楽しむイベントに近い展覧会があれば実施していきたいと思っています。

●事務局

続きまして、美術館の特別展に関連した事業をご説明します。

●まちづくり文化推進室

担当から、美術館のねこ展に関連した事業についてご紹介します。このチラシとあと1枚の資料をご覧ください。ねこ展と連携しまして、まちづくり文化推進室では3つ事業を実施します。1つ目は、猫の足跡シールです。写真にありますとおり、中心街に猫の足跡と特別展のタイトルと美術館の場所が表示された猫の顔のシルエットのシールを貼り、美術館特別展をアピールして、なおかつ、この足跡が美術館に誘導するように貼られていて、足跡をたどっていくと美術館に到着するようになっています。

2つ目は、猫の写真の撮り方ワークショップで、八戸コンタックスクラブ会長の佐藤義弘さんを講師として呼びまして、八戸ニューポートで猫の写真の撮り方を学ぶワークショップを1月24日土曜日に実施する予定となっています。

3つ目は、半券サービスとなっています。こちらはさきほど、山田館長からご説明がりましたが、詳細については、この黄色のチラシをご覧ください。中心商店街37箇所からご協力をいただきまして、美術館の半券を持ってお店に行くと、それぞれのお店でサービスが受けられます。各店のサービスの内容については裏面に掲載しています。半券サービスは、半券1枚ですべてのお店のサービスを受けられます。以上です。

●事務局

続きまして、八戸ポータルミュージアムの事業についてはちちからお願いします。

●八戸ポータルミュージアム

八戸ポータルミュージアムからご説明します。

クリップ止めしてある資料をご覧ください。1つ目が「和日カフェ」と書いてあります。これは、毎月第3日曜日に日本文化に親しむ日ということで開催しているイベントです。今月は12月20日、21日と2日間にわたって開催します。1つは、「クリスマスに飾る花を生けてみよう」で、こちらは21日に開催します。次は、八戸の風景を捉えたプロジェクションマッピングを楽しむお茶席を20日、21日の2日間開催します。これまでも市内の文化団体に月替わりでご協力いただいておりますが、今後も盛りだくさんですので、ご注目いただきたいと思います。

次のプリントですが、「八戸市中心街まちぐ(る)みプロジェクト」です。今年の10月からスタートしている事業で、アーティストの山本耕一郎さんで、はっちのオープニングの「八戸のうわさ」や南郷アートプロジェクトにも関わって頂いているアーティストのプロデュースで、まち歩きが楽しくなるような仕掛けを目に見える形で作ることで、何かできそうなまちというイメージの発信や

中心街の方々の意識改革をするプロジェクトで、更には、まちづくりに関わる人を増やすことを目的に行っている事業です。これは、市と八戸中心焦点街連絡協議会との共催で行っています。今年はお試し企画で、山本耕一郎さんとまちのために何かしたい市民集団「まちぐみ」というボランティア組織を作りまして、このメンバーで、ヤグラ横丁を中心に数店舗の外観のちょっとしたリノベーションを行ってまちが楽しくなるような仕掛けを作っています。次のページに今年実施した写真を載せています。この中のきものたちばさん、小井川種苗店、はちのへ額装さん、花亀さんは、山本さんにお支払いしたディレクション料の中で材料を購入してリノベーションをしています。これをみたまちの方々からこれはいい、ということで、後から自費でご参加いただいたお店が、まちの駅はちのへさん、はっちの館内にあるクレヨンさんです。これからリノベーションをするはつと庵さんとBeFMは今進めているところです。ちょっとした見た目の変化をもたらすことで、まちの方々の意識が変わり、まちが変わっていかねばならないというまちを挙げての取り組みになればと思っています。

次に、「まちぐみ新聞」をつけています。プロジェクトが始まって2ヶ月なので、経過報告として作った新聞ですが、開くと「まちぐみイケメン・美人図鑑」とあります。これだけ、まちぐみのボランティアメンバーが集まっています。これは、一人目から1号、2号と番号がついていますが、今、80人に参加いただいています。市長も8号で参加しています。このような形で、まちに関わりたい人が集まって、これから中心街のためにいろいろ活動して、来年度は本格的に動かす方向で進めているところです。これは新聞等でも取り上げられていまして、これからも大きくやっていきたいと思っていますので、こちらもご注目いただきたいと思っています。

次の緑色のイベント情報ですが、はっちの12月の予定になっています。はっちの自主事業や貸館事業など盛りだくさんです。6日には、「はっちがずばっと南部弁」がありますが、柗谷さんにも関わっていただいていますし、貸館事業では、全館を千葉校で借りての催しなど多くの方々に利用していただいています。

最後になりますが、来週から始まりますが、「八戸ライトショーフェスティバル」です。昨年2月のはっち開館3周年の時にも実施しましたが、今年は12月19日から21日に、主にプロジェクトマッピングを使って、地域の資源をモチーフに、地域の見えない価値を可視化するという取り組みをしているメディアアートの祭典です。一番大きなイベントは、はっちの壁面に巨大なプロジェクトマッピングを投影するのですが、8月に親子ワークショップで作った、投影される映像を紙粘土やコラージュが登場し、見ごたえのあるものとなっています。そのほか、地域の資源を使って、巨大な八幡馬に投影する作品のコンペですとか、先ほどご紹介のあった、DJの阿保さんなど地域のDJが集まる「クラブはっち」など、市民参加型のプロジェクトがたくさんあります。作品も地域性の高いものがたくさんありますので、是非、時間のある方は見ていただきたいと思っています。以上です。

●事務局

続きまして、公会堂、公民館、南郷文化ホールの事業につきまして、アート&コミュニティから報告いたします。

●アート&コミュニティ(株)

私からご説明いたします。1回目の当会議で、イベントにつきまして今年度の事業計画を申し上げましたが、終了したのもございます。中には満席で終わった公演もいくつかありました。本日は、1月から3月までの今年度の残っている事業の一覧を作りまして、お手元に配布しております。これに沿ってご説明いたします。

1月6日から10日、8回目となりますが、「第8回やってみよう、舞台づくり」。公会堂と公民館のホールを使いまして、舞台の裏方の経験をしてもらうということを目的に始めました。最終日には、2つ目でございます「第3回うみねこ演劇塾発表会」の現場に実際に携わっていただき、最後の仕上げにしたいと思っています。うみねこ演劇塾は内容が固まりまして、柗谷公民館長の脚本によります、1部がうみねこシニア塾の9人のおかしな人達、2部ではシニア演劇塾から「にゃんたって猫が一番」を10日に発表会を行います。同じく10日に、公会堂のほうでは、NHKとの共催でチャリティーコンサート「おかあさんと一緒」のファミリーコンサートを開催します。歌のお兄さん、お姉さん達の出演によるNHKEテレの公開収録となっています。

1月25日は、南郷文化ホールにおきまして、南郷アートプロジェクト2014の関連事業としまして、公共ホール現代ダンス活性化支援事業森下真樹さんのダンス公演「これってダンスなの?」、森下真樹さん、遠田誠さん、沢代キュートンによるダンス公演がございます。

2月に入りまして、1日の日曜日、スウィングベリー・ジャズ・オーケストラ、SJOのメンバーによるジャズを習いたい方のワークショップということで、ジャズの演奏方法等の指導を行います。そして2月8日は、南郷地域の伝統芸能を一同にかいして行う、地域伝統芸能まつり、2月22日は、公会堂におきまして、第9回パフォーマンス劇場が開催されます。出演団体は9団体ということで、八戸ベリーダンス、南風楽団、西園スウィング・ジャズ・バンド、DANCE WAGさんほかとなっております。ゲストは、女性ボーカルユニットで二人組みのやなわらばーが特別出演ということで出ていただくことになっています。合わせまして、全館を使用しました「はちのへ子どもフェスタ」、これは10回目となります。これは、親子で楽しめる催しものとなっております。

3月に入りまして、7日は、「北部航空音楽隊定期演奏会」、そして、14日、15日の2日にわたります、「第54回八戸ファンタジィ」。これは、八戸文化協会に加入しています各団体の発表会となっています。3月22日は、スウィングベリー・ジャズ・オーケストラSJOのコンサートで、南郷文化ホールにおいて開催します。

合わせまして、公会堂友の会の会報誌をお付けしています。この中に、13日、14日に開催されます南郷名画座の内容も記載されていますので、後ほどご覧ください。以上で説明を終わります。

●事務局

事業の説明につきましては以上で終わります。

●会長

はい、どうもありがとうございました。全部で6事業ですね。ただいまの説明でご意見やご質問ございますか。●●委員、南郷でやったプロジェクトについてお話してくれませんか。感想も含めて。

●●委員

映画音楽を作曲しました。6曲7タイトル作りしました。まだ完了してなくて、今、編集中だと思います。

●会長

編集中なんですね。いつごろ出来上がってきますか。年度内ですか。

●まちづくり文化推進室

今、編集をかけていまして2月1日に上映されます。

●会長

2月1日。

●●委員

どんな映画ですか。

●まちづくり文化推進室

ダンス映画なので、セリフが出てくるような映画ではないんですが、子どもたちが主人公でPTAのお母さんたちも出演していて、ちょっと小さなラブストーリーを詰め込んでいるようなアンニュイな感じの映画になっています。その音楽を嵯峨さんに手がけていただきまして、プレイヤーの皆さんに演奏していただき録音した映画音楽になっています。

●会長

いかがでしょうか。ご意見やご質問。猫さんは三戸に仁義を切らなくていいんですかね。話しましたか。

●美術館

馬場のぼるさんには、一応、お声はかけました。

●会長

提携すると面白いかなと。前、県立美術館でやったときも足跡でしたね。壁のところ。

●美術館

美術館から直接、お声はかけていないんですけど、政策推進課の定住自立圏の事業の中での声かけをしたようです。

●会長

双方で協働・連携したらいい。

●美術館

ネコバスに乗ってこちらに来ませんかというようなことは投げかけたようですが、その後の話は聞いていません。

●会長

せっかくだから。いかがですか。

●●委員

関連してですが、この岩合さんの展示会の時に、一般から募集する写真ですが、9センチかちよっと大きいものになると思いますが、これは返さないと書いてありましたが、出しっぱなしということですね。

●美術館

返すのは大変です。戻さないという前提でいただいています。

●●委員

提供ということですね。

●会長

こういうことを一回やると、同じように延々とやらないならない。そのうち生きている猫をいっぱい持ってきて、さわったりできるような何かとね。

●美術館

猫カフェというのがあるようなのですが、八戸市内には残念ながらないようで、青森市内に1件あると聞いています。

●会長

最近、鳥なども癒し系で。

個人的には工場大学がずっと気になっています。面白いと思います。八戸の試験だもんね。箱物というか。

●●委員

屋形船で一回見ましたけど、感動しましたね。すごいなあと思った。

●会長

橋とかいろいろあったりしてきれいですよね。

半券を持っていくとビールが百円引きとか。絶対すごいと思うよ、これ。もっとPRしてもいいよね。YouTube か何かに載せたらいいんじゃないですか。

あと何かありますか。僕が勝手に喋っていますが。なければ、2つ目の市長のマニフェストにもありました、文化のまちづくりビジョンの草案が出来上がりました。皆さんのお手元にもあるかと思いますが、これについて、今日、少し意見交換をしたいと思っております。なにしろ、今、見てもかなりいろんなものがいっぱいあって、これは市の広報公聴課などで、こういうイベントについてどのくらい知っていますかというようなアンケートはやるんですか。

●事務局

市のアンケートはやっているのですが。

●会長

バラバラじゃなくて全体の。そういうのをもとに本当はこういうビジョンを体系化していくといい。アンケートは何年かに一回ずつやっていませんか？八戸市はやっていなかったですか。市民向けのアンケートとか。

●事務局

総合計画関連ではほぼ毎年やっています。ただ、項目立てが、文化など個別の項目ではなくて、市の施策全体のものになっています。

●会長

今、成長戦略の地方自治版でそろそろいきますよね。そういう時にもアンケートを取ったりして、多文化とかは十分に反映されるべきものですよね。青森市はそうですよ。経済ばかりではなくて。僕も入りますが。文化などいろいろ入れてやるんです。もちろん、子どもを増やすという項目もありますけど。

●事務局

第6次総合計画の策定にむけて、アンケートを実施しているんですが、幅広なもので、もちろん文化もその項目に入っていますが、具体的な細かいところまでは触れていないものです。

●会長

勿体ないですね。これだけいろいろやっているから。

●事務局

サンプル数が多くなくても良いと考えると、通常の仕組みの中でやる方法がないわけではないのですが。

●会長

それではこのビジョンにつきまして事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

私から、簡単に文化ビジョン策定の状況につきましてご説明した後に、中身についてご説明いたします。資料ですが、文化のまちづくりビジョン（案）、ホチキスでとめたものと策定経過が2枚ございます。策定経過から申しますと、前回の懇談会でも、平成26年度4月の時点までの状況についてご説明いたしました。その後、11月に2回ほどワーキング会議を開催いたしました。庁内の関連部署と東京藝術大学の熊倉教授をお招きいたしまして、ビジョンについて意見交換をしたところでございます。それをもとにして、今回、（仮）文化のまちづくりビジョン（案）ということでたたき台を策定しております。これにつきましては、骨子でありまして、ビジョンの骨組みを組み立てています。その中で、委員の皆様のご意見をいただき、その意見をもとにワーキングの中で肉付けをし、最終的なビジョンに仕上げて行きたいと思っていますのでよろしくお願い申し上げます。

ビジョンの中身については、担当の古町からご説明いたします。

●まちづくり文化推進室

文化のまちづくりビジョンについて概要をお話します。

全体の構成ですが、1. ビジョン策定の趣旨、2. 八戸市の文化芸術を取り巻く現状、3. 基本方針、基本方針には、1から3があります。4. 4つの視点、5. まとめ、となっています。

はじめに、「ビジョン策定の趣旨」ですが、読み上げます。

文化芸術は、心に潤いをもたらす、豊かな人間性を育むだけでなく、多様性を受け入れる土壌を育み、人と人を結びつける力も持つとともに、人々の創造性を育み、創造的な活動の源泉となるなど、様々な効果が認められていることから、近年、文化芸術に対する人々の期待が一層高まりつつあります。

また、文化芸術の持つ創造性は、福祉、教育、観光、産業、地域コミュニティ等幅広い分野と関連することで、様々な効果を発揮し、地域が抱える諸課題を解決するひとつの方法として注目されるとともに、まちの独自性や新たな魅力を生み出す源泉にもなるものと期待されています。

国においては、文化芸術の果たす役割が今後においても変わることなく、心豊かな社会の形成にとって重要な意義を持ち続けるとの認識のもと、文化芸術に関する施策を総合的に推進するため、平成13年に「文化芸術振興基本法」を定め、様々な施策を展開しています。

一方、当市においては、平成17年の八戸市と南郷村の合併を機に、伝統的なものから新しいものまで多種多様で活発な文化芸術活動を地域活力の創出につなげるという新たなまちづくりを進めてきました。最近では、文化芸術の役割や可能性を広く捉え、各分野における諸課題を横断的・総合的に解決する手法として「アート」を活用したアートプロジェクトを展開し、まちづくりを推進しているところです。こうした活動は、地域の資源を活用し、地域の抱える諸課題と関わりながら展開する中で、文化芸術の普及を図るだけでなく、文化芸術の創造的なアプローチを活かして社会に働きかける役割も担っています。

当市では、八戸市らしい魅力あるまちづくりをさらに進めていくため、文化芸術振興基本法を踏まえた上で、文化芸術の持つ特性に着目し、市民の力、地域固有の資源、創造性が持つ可能性を最

大限に活用することにより、魅力あるまちづくりを進めるための指針となる「文化のまちづくりビジョン」を策定します。

次に、「八戸市の文化芸術を取り巻く現状」について、読み上げます。

八戸市は、優れた工芸技術を示す是川遺跡出土品や、三社大祭とえんぶり等の有形・無形の文化財、そして、種差海岸・蕪島等の自然に恵まれた、古い歴史と雄大な自然が融和したまちです。また、太平洋に面するその立地から、近代においては、漁港・商港として発展し、今日に至るまで全国屈指の水産都市、北東北随一の工業都市として発展し、成長を遂げてきました。

このような背景から、伝統に根ざしながらも、域外からのものを取り入れ、更なる発展を遂げようとする風土が培われ、多様な価値観を持った人々がお互いの価値観を認め合い、刺激し合い、多種多様な文化芸術活動が行われています。

八戸市では、このような市民の特色ある文化活動を「多文化」と定義し、その「多文化」を推進することで地域活力の創出を図ってきました。近年は、各文化関係施設における館内での鑑賞型事業の実施に加え、農村や横丁等を舞台にした、館外で繰り広げられるアートプロジェクトの実施や工場をテーマにした市民参加型文化活動等、地域の特性を生かし、まちと深く関わりながら実施する文化芸術活動に取り組んでいます。また、平成23年2月に中心街に誕生した八戸ポータルミュージアムでは、市民とつくる事業、産業・観光振興のためのクリエイティブな事業、そして、そこに集まる人々のコミュニケーションがまちを動かす力と考え、新しい価値の創出を促進する事業を展開しています。

このような文化芸術をまちづくりに活用し、地域の特色を生かした施策が総合的に評価され、文化芸術創造都市部門における平成25年度文化庁長官表彰を受彰しました。

一方、第6次八戸市総合計画策定に向けた市民アンケート調査では、「芸術・文化に親しむ鑑賞機会や活動機会が充実している」について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足割合が約51%と高い数値でしたが、「八戸市の魅力を感じるころ」では、「歴史や伝統文化」が17%、「芸術・アート」が1.9%と低い数値となりました。この結果から、文化芸術に親しむ環境はある程度整っていると感じている市民が半数を占めている一方で、文化芸術に魅力を感じている市民は少なく、文化芸術を活用したまちづくりに対する市民の認知度は低い傾向にあることがわかりました。

今後は、この授賞を契機に、より一層、八戸の文化芸術活動に自信を持ち、地域への誇りを深め、文化芸術の持つ創造性を地域活力の創出に活かしていきます。

次に、基本方針となっています。

基本方針1は、「すべての市民が文化芸術を楽しむことができる環境づくり」。基本方針1の1は、「文化芸術に関する環境の整備」で、ここでは、個人を取り巻く状況にかかわらず、すべての市民が文化芸術に関わることができる機会の創出について記載しています。2では、「市民文化芸術活動の支援」で、市民や文化芸術団体の活動の支援について記載しています。

基本方針2は、「地域資源の活用」。地域固有の資源について記載しています。基本方針2の1は、「伝統的な文化芸術や地域固有の資源の再認識」で、文化財や伝統的な文化芸術、生活様式、自然、産業などの掘り起こしについて記載しています。2は、「継承者の育成」について記載しています。

基本方針3は、「文化芸術の創造性を活かした、まちづくり」。文化芸術の持つ創造性を活用し、

幅広い分野に取り組むこととしています。基本方針3の1は、「文化芸術を活かしたまちづくり」で、創造的な活動による、地域資源の再発見や地域課題の取組み、活動に関わる人のつながりなどについて記載しています。2は、「人材の育成と活用」で、こういった取組みをするための人材の育成と活用について記載しています。3は、「推進体制の強化と横断的な取組み」で、様々な主体の役割と他分野での総合的な展開のための体制について記載しています。

次は「4つの視点」として、「多様性と寛容性の尊重する」「独自性（八戸らしさ）に焦点をあてる」「持続性を持って取り組む」「創造性を発揮する」の4つを挙げています。

最後に「まとめ」として、3つの基本方針と4つの視点を持って、文化芸術を活用したまちづくりの推進について述べています。

以上で、(仮)文化のまちづくりビジョンについての説明を終わります。

●会長

はい、どうもありがとうございました。一応、基本方針をビジョンの策定の趣旨、それから、取り巻く現状、そして基本方針を1、2、3ですね。そして、それに基づき、4つの視点、最後のまとめということで、最初のビジョン策定の趣旨となるべく整合性を持たせるという形で書かれているわけですが、いかがでしょうか。何か読んでの感想はいかがですか。懐かしい言葉が何回か出てきていますね。

いかがでしょう。趣旨は今までの流れといいますか、多文化についての定義を踏まえて書かれています、今までずっと議論をしてきたことが書かれているわけですね。それから、現状の文化芸術を取り巻く環境面について、2で書かれてあるはずですが、具体的なパーセンテージ等も含めて書いています。

こういうビジョンは何年かのスパンでしたか？

●事務局

スパンを決めてやるビジョンや計画もございますし、いろんなパターンがございます。

●会長

パーセンテージが入るとどうしてもスパンが5年とかになってくるのかなあという印象がちょっとありました。

●事務局

今のビジョンにつきましては、スパンは特に定めてはいませんが、今、第6次総合計画を策定準備中でございます。28年度からの総合計画ですが、その計画が5年でございますので、そちらとの整合性をとった内容になればいいのかなと思っています。

●会長

いかがでしょうか。

●●委員

3 ページに第 6 次総合計画が出てきますが、これから出たパーセントをここに記載しているわけですね。アンケート調査。これは市民対象者が大体 100 名くらいですか。

●事務局

配布は 6,000、回収率が約半分の 54.1%です。

●会長

箱物に注文がつけられるのかと思ったら、そういうのはいいんですね。昔は、生涯学習の基本方針の計画を立てるときに、財政課などから箱物についてはだめだと言われて、ソフト関連だけだということで、それである時は年限を付けなかったんです。全国でも珍しいんですね、生涯学習基本計画を作っていて年限を定めないというのは。面白いやり方だった記憶があります。

●●委員

28 年度ということは再来年度？

●事務局

そうです。5 次計画が 27 年度までです。

●●会長

ざっと読んだときに 5 ページの基本方針の 2 が地域資源、人、ものとかいろいろありますよね、事とか情報とか。そのときを考えた時に 2 つだけじゃ寂しいなど。もっと、八戸のポテンシャルとかロケーションとか地理的なそういうのも地域資源にならないのかという感じがしています。ここはまさに継承者、人、それから今まであったもの、こと。もっと、地域資源という意味合いでいうとあるんじゃないかな。それからないものねだりをしますけど、7 ページは多様性、寛容性、独自性、持続性、創造性なんですが、まだないかなとか。横文字にして全部の頭文字をうまく使うとか。Diversity とか。一緒に作り上げていく、協働性とか。いろいろ書いてある気がしますが。

それから、最初の当市と八戸市という表現ですが、意図的にやっているんですか。ビジョン策定の趣旨では「当市においては」という書き方ですが、2 番目は「八戸市は」となっています。普通は「八戸市は」といくんでしょうけど、これは意図的にしていますか。

●事務局

特に意図はありません。文字の整合が取れていなかったものです。最終的には文字を統一を図りたいと思います。

●●会長

そうですか。

●●委員

僕も当事者なので言いにくいところもあるんですが、文化ホールがいっぱい建ったときに、全国で言われたのは、文化ホールがまちを変えるということで、実際、僕らも今やっているわけですが、いろんな行事を見ると文化ホールだけではなくて、例えば、はっちの文化施設、あれが少なくとも中心街をだいぶ変えてしまっている。それからいろんなイベントがあります。文化ホール、文化施設、文化イベントがまちを変える。実際変えているんだろうかという検証もしていかなければならないのかなど。やったという自己満足だけではなくて、認知度がちょっと低いなという気もするんですが、いかに市民の中にそれが浸透していったって、市民から支持を得ているのかということを確認しつつやっていかなければ。もちろんすべての行事に市民が参加できるわけではない。それから多文化ですから興味のないものはないんですから、それはそれとして、やはりきちんと押さえて行く必要があるのかなということが一点。

これもまた僕が関わっていると思うんですが、さきほど内海先生から5ページの地域資源のところについてです。僕が関わっているのは鮫神楽という民俗芸能ですが、もう危機です。どこの神社に所属しているわけじゃないし、まさに愛好者がやっているだけで、中心になっているのが80歳の2人で、その2人が倒れると、鮫神楽が消滅してしまうんじゃないか。しないように必死に、例えば、鮫小学校全員、鮫中学校全員、南高校にもと思ったらなくなってしまいました。水産高校といろいろ悩んでいるところですが、それでもなかなか中学生になると練習に参加できないという問題もあります。鮫神楽の場合、1月から3、4ヶ月、週3回、毎日稽古をするものですから、なかなか厳しい状況です。でも、なんとかなくさないようにしなければならぬ。かといって、行政からは何もないわけで、やはり僕らが鮫の人たちにもう一回呼びかけてやっていかなければならないのかなという気がしています。鮫神楽だけじゃなくて、えんぶりや三社大祭は、ああいう形で観光にのっているわけですが、のっていないいろいろな民俗芸能もどうやって守っていくのかということが1つあります。鮫神楽だけでなく気を使ってほしいなど。それが地域で大事なことで、表で三社大祭やえんぶりがあるとすれば、裏で八戸らしいいろいろな民俗芸能を守っていかなければならない気がします。

もう1つ、方言についてです。明日、八丈島日本語・方言危機サミットというものに行ってくるんですが、これは文化庁やユネスコが必死に、特に日本の言語・方言についての消滅危機に対して語りかけているわけです。これはまちづくりだけでなく、教育も含めた形で八戸の方言をどうするのかということのをこれから考えたいなという気がしていました。以上です。

●会長

そもそも柗谷先生の後継者はいるんですか。つまり、そういうことを考えなければならぬんです。今までは、特化した個人とか、善意におぶさってきたみたいなどころがあって、同じことを先生の後追いをするようなそういう人が生まれてこないことのほうがこれから多くなりますよね。ある意味では、意図的にそういう人材を継承させていくようなことを考えないとね。

この前も社会教育の東北大会が秋田であって、どこも同じです。素晴らしい館を作ったけど、それを十分こなせる人がいない。高齢の住民が入って、教える人がいないから東京から来てもらう。

もったいない。今時、ああいう館の中でできるのはもったいないと言ったんだけど。そこも、実は、女性が減って、ナンバーワンの消滅する自治体と出ていました。

いずれにしても、地域資源が2つありますが、意図的にうまく表と裏じゃないですが、支えあっていく、目立っているところのえんぶりとかそういうものの下にある、日常あまり目立たない文化を大事にしなければいけないというのは、我々はそのへんは良く見てきましたが。

●●委員

文化がもうちょっと魅力というか、若い人達が見たときに文化がそこで同じものをやっているほとんど古くなっていくと思うんですね。ですから、全く同じものを継承するのではなく、発展するものを作っていかなければ。やはり文化もそうですが、芸術というのはいくらも刺激がなければ、多少ここが他と全く違うもの、他がやっているからこうというのは見飽きていると思うので、ちょっと違うものを出していかなければ。同じ鮫神楽でも、それに例えば、ダンスパフォーマンスと一緒にやって、あれは鮫神楽と似ているとかそういうふうな表現の仕方でも、もっともっと発展的なものができると思うんですね。ですから、全く同じもの、昔のものをそこで演じるのと、それにプラスしたもの、いわゆるもっと芸術性に押しあげたものとか、違ったアレンジをしたものを出していくという方向で維持することはできると思うんです。

全く同じだと若い人は見ないです。教えられると見るかもしれませんが、パッと見て面白くないな、古いと感じてしまう。それは結局、廃れていくと思うので。廃れないためには、新規が必要だと思うんですね。どうしてもあれやりたいという、どこかでアピールできるもの。例えば、色を変えるとか若い人がやるとか、男の子だけだったものを女の子がやるとか、いろいろな方法で。音楽もちょっとアレンジしたものでやるとか、いろんな方法で継承していったほうがいいのかと思います。

あと、これをみると、文化と芸術と一緒に考えられているように私は思います。文化はそういうふうなものでいいと思うんですが、芸術というのは、常識のないことをやっていかないと。例えば、この中で興味あることは、工場、産業にプラスしたものを芸術にしようというのはいくらも面白い考えです。それから、テレビでよくちらっと見る岩合さんの猫は、やっぱり映像が綺麗ですから、どちらかというとな化したもので人らしく、人が会話している、猫が意図してしゃべっているような、違う視点で見るととても面白いと思います。

やるからには他にやっていないような、例えば、猫の事業で足跡を作っていますよね。昨日まで、私はドバイに行ってきたんですが、例えばメトロの路線に、ここまで行ったらどこだろうと思うときに、ぽんと大きなシールが貼られていて、「フォローミー」と書いてあるんですね、英語で。アラビア語じゃないです。ああ、ついて行こうって思って一緒に行くと、今度そこにあそこだねというふうにあるんです。この足跡のところについてきて、こっちこっちとかやれば、子どもは面白くて探検するようにあそこに行こうとか、日によって場所を変えると、今日はこっちじゃないということをやると思うんですね。そういった刺激というのか、やるからにはやっぱり他と違うことをやっていかなければ。同じメトロでも、楽しみながら行けるメトロとただ疲れながら行くメトロ。東京あたりは、結構、綺麗なんですけど、疲れちゃうんですね。人も多いですし。あっちも人はとても多かったですが、人工都市ですごくきらびやかでちょっと見るだけでも面白い。

箱物でも、他と同じような四角い大して変わらないちょっと古めのものができると思うんですが、やるからにはやっぱり目を引くような変わったものを作っていかなければ。色でもそんなんですが。ここぞというものを作っていかなければ。小さくても構わないと思うんですが。やっぱり少し違うもの、質のいいものを作っていかなければ。あそこに行くと、芸術のホールが他と違うんだよというものを見せたほうがいいと思うんです。

例えば、東京のイタリアの大使館は、赤っていうんですか、あそこは赤が国の色ですから。スペインはオレンジだと思うんですが、やっぱりそれぞれの国民色があると思うんです。ここはここの色を出していけば面白いかなと思います。

一週間から十日くらいの旅でしたが、その間に、私の友達は弘前の方の出身で私は八戸なんですが、向こうの方言で「これ知ってる？」とか四六時中いろんなことをしゃべり合っていました。今そちらから話題に出ましたが、方言の発祥とそれをどうやって使うか、これを使って面白いジョークが生まれたら賞をあげるとか、そうやっていくと、八戸では、弘前のことをこうやって話題にしていますというように、相当いろんなニュースだと思うんです。結構、方言って文化が入ったすごく面白くて、たおやかで非常に青森的な奥まったような文化が表れる言葉も多いと思うので、言葉の勉強にもなると思うんです。そうすると文化と一緒に出てくるということで、私はこれはすごくクローズアップできるんじゃないかなと思っています。今日、ここに出席するときこれをやっぱり取り上げたほうがいいんじゃないのかなと思いました。

あとは女性が好むものがちょっと少ないかなと思うんです。それでできれば外国じゃないんですが、ここはここなりのもの、例えば、オーストリアだったらデビューパーティーでダンスをやりますよね。義務みたいにして、何歳になったらこれをやるっていうように、盆踊りでもなんでもいいんです。パーティーで、これを覚えてやろう、20歳の成人式にはこれを全員でやるというような。せっかくなので、ただの式で帰るのではなくて、覚えて知り合って帰っていくみたいな。あそこに行くときちょっと賑やかなパーティーがあるらしいとか飲みも盛大らしいとか。

そこで、せんべい汁を食べて、猫の話題を一つやったらもう一杯とか、そこまで発展していかなければ、子どもだけ集まるとか大人だけ集まるというわけにはいかないと思うんです。ごちゃまぜで、大人もあそこに行ったら猫も見れるし飲めるし、それから楽しめるし、若い子はこのチケットを持ってあそこに出せばパーティーができるそうだし、ドレスのことも教えてくれるそうだし、予行演習もできるし、それで成人式にいける。20歳でやったら、今度は25歳のパーティーもあるそうだし、という知り合いもできるし、そしたら少子化にも繋がるし、やっぱりそこまであれこれ発展的なものを作っていけばいいような気がするんです。

●会長

闇鍋文化みたいな。でもいいかもしれないね。

●●委員

やったらすぐ終わってしまうと話題にならないんですよ。すぐ飛びつきたいというのがちょっとなくて、それが気になるんです。

●会長

おっしゃったように芸術っていうのは、僕も芸術学部にいた時、よく言われましたが、芸術は、消費の文化だと。通常の文化と芸術は違うということはまさにそこで、消費することには、全然こだわらない。場合によっては、攻撃的なものもあるし。ただ、そういう似たようなのできる時は、本家って必ず大事にされますからね、元祖というかね。コピーができればそれはいいと思いますが。参考になることもあるから少し。

●●委員

南郷アートプロジェクトの大駱駝艦のおじょう藤九郎、あれはショックだったし、えんぶり組の人全員に見せたいし、八戸市民にももっと観せたいなと思った。勿体ないなと思った。もちろんみんなそうなんだけど、特にあれはすごいヒットだったし、こっちへも持ってきたかった。南郷アートプロジェクトでやっているんだけど、あそこでちょっとおっと思うのは、こっちに持ってきて上演するとか。もう1つ、やっぱり発展性が欲しい。特に、大駱駝艦はそう感じました。とてもショックだし面白かったです。えんぶり組よりもえんぶりでしたね。是非、見せたいな。

●会長

南郷はいつまでああやって頑張る？つまり、あそこはアートの拠点ということにして闇鍋文化じゃないですけど、それぐらいにして。だいたい、合併した浪岡もそうだけど、本家よりも歴史や伝統がいっぱいあるんですよ。だからそういうふうにして、南郷なんかは「すまもり」で尊重は頑張っていますけど。もうゾーンを決めちゃったらどうですか。そうするとそこに人が来たらまた文化が生まれますよね。

●事務局

来年5年目を控えまして一旦これまでやってきたことを検証しながら、今後の方向性や展開を探っていきたいと考えております。

●会長

役所は、何年間かで、やっという頃に引いていくから、勿体ないんですよ。だからゆっくりでいいから、気長に、今はどちらかという、どっどやっているところがあるじゃないですか。ゆっくりでいいから気長にやると育っていくというか。

でもまあいかがですか。今、委員からいろいろございました。方言では、津軽は津軽なんとかの会というのがあって、結構著名な人、例えば鹿内市長などが入っているんですよ。昔は南部弁と津軽弁のそういう何かをやっていましたよね。僕は八大でもやりましたけど。あれはもうなくなっただんですか。

●●委員

要は、津軽弁と南部弁が喧嘩するわけではないんですが。

●会長

ああいうのはもうないんですか。

●●委員

はっちでおととい土曜日にやったように、津軽はいろいろテレビ局とか使っているし、南部ははっちと文化庁と僕らで続けていきます。

●会長

あれも八郎さんとかだんだん決まりきってきてね。

●●委員

向こうもタレントがいっぱいいますが、だんだん高齢化になってきているようです。それは八戸も同じで、人のことは言えませんが。

●会長

伊奈かつぺいのような、ああいう人とか。でも次の人が出てこないでしょ。名刺くださいと言ったら名刺と書いた名刺くれるとかね。広辞苑で広辞苑を調べたけど、意味がどこにも出てこない。広辞苑はこの本と書けばいいとかね。そういうのを平気でやったりするのが津軽の人だなあと。フランス語と同じ鼻濁音でうまくやるっていう。非常に面白い。

でもこっちにもいますよね、そういう人は。言語はすごい大事にしたほうがいいですね。この間、浪岡高校に行ったらお琴を弾くんですよ。学校に琴がある。そんなに大きい学校ではないんですが、女の子はほとんどお琴を弾く。これは入社試験の時いいだろうなと思って。

まあいずれにしてもいかがですか。個人的には地域資源の活用というのはもっとあるんじゃないかと思うんですよね、八戸の歴史に匹敵するぐらい。さっきおっしゃったような新しい芸術とかをクリエイトとか創造するというか。そのためにはしっかりとした土台がないといけないわけですよね。文化協会さんどうですか。若者をどう取り込むか。

●●委員

高齢化の話などいろいろ出ていますが、我々もそれは総会でよく訴えています、どうしても今だいたい70から80歳の方々が会首を務めているんですが、なるべく事業そのものも新しいものを取り入れているんですが、後継者とか指導者を引き継ぐ方を重点的にはやっていくんですが、そこへ来ているような気がします。その辺に力を入れていかなければだめなのかなとは思っているんです。本当に今そういう時期にきています。昭和に入って、来年で90年近くになりますから。70代、80代の方が多いです。特に、文芸関係の方はほとんどが高齢者、70代以上です。その辺がこれからどうするか大変な課題にはなるだろうと思っています。

●会長

いかがですか、その辺は。

●●委員

いろんなものをテーマにして何か発信していくというところ、八戸の文化にこだわったようなものを新たに創造していくというのは問題がないんですが、例えば、農作業とつながった伝統芸能とかは、農作業とは関係なく形だけ残っている。例えばえんぶりもそうです。そういったものは一箇所も変えてはいけないと思うんです。そのまま残していかなければならない。変に新しくしたり変なコラボでつまらなくしたりしないで、そのまま残していかなければならないとなった場合、高齢化の問題もあるので、例えば、市で大きく予算を取って、人材を職員自ら伝統芸能を引き継ぐ市の職員がいるとかね。そういった新しいシステムでとりあえず今のこの急場を凌いでいくしかないのではないのでしょうか。

●会長

伝統芸能は保存していくのにお金がかかりますよね。

この前、日本全国からマウスピースをもらって、ああいうことをやると喜んで寄付してくれるんじゃないかと思うんですよ。そこで改めて八戸という名前をね。もったいない図書館に本を寄贈したように、何かそういうアイデアとかなんだろうなあ。

そのへん、塚原委員、いかがでしょうか。僕らは音楽の世代ですもんね。井深さんがこれからは音楽じゃなくて映像の時代だと言ってソニーはそれに乗れなかったんですよね。だからアップルに負けちゃうんですけど。今は、映像のその次は何か。でも、映像のコンテンツ、底辺には必ず音楽がある。でも、日本があっちのほうに伸びるには井深さんは映像だと。日本はまだうまくいっていない。IT化したら映像ですもんね。芸術のあり方、あるいは文化というものも変わる。多文化はいろんなもので、そこに生活も入ってくるという。そう考えると、さきほども僕はこだわっているんですが、視点は4つだけでいいのかなと思って。何か八戸らしく8つぐらい出るとは言わないけど。分からないことはないですが、随分頭をひねったんだろうなと思いながら。ただこれが全部まとめとかに反映されていますからね。

●●委員

ちょっと質問いいですか。5ページの基本方針のところは2つあるんですが、具体的ではないのでイメージしているものが良く分からなくて。伝統的な文化芸術や地域特有の資源の再認識というのは、最初に、文化財、民俗芸能等、伝統的な文化芸術、歴史、個性である生活様式と書いてありますが、イメージしているものはどういうものですか。

●事務局

幅広に捉えていまして、八戸に残っている伝統芸能や生活文化があるかと思います。例えば、代表的なのはえんぶりや三社大祭や鮫神楽などですが、そういった様々な八戸特有のものを見つめ直すことで活用できる素材になるのではないかと考えています。

●●委員

そうすると、私は観光コンベンションの立場で三社大祭やえんぶりをやっているんですが、三社大祭はもともと小さかった山車がどんどん大きくなってきてしまっていて、これから議論になっていくと思いますが、エンジンを外さなければならないということになっています。今の段階で、外したら動きません。根本的な部分で、ここに書いてしまうとそのようなイメージだとすると、このあと観光のことを議論した時に、三社大祭そのものがどうなるのかというところがすごい問題点なんです。山車は50人ぐらいでしか引いていない。50人で引けるわけがない。なので、エンジンをかけているんじゃないかなということはお互いが目をつぶっているというのが結構あるわけです。それを白黒はっきりさせなきゃならない状態になってきて、こういう曖昧な表現だと実際にやっている方はすごくもどかしい。こういう書き方をされると、三社大祭もこの中に入っているんだとすると、そういった議論を町内の人がない、役所批判じゃなくて、市の互助会の山車は、制作はお金を払って委託している山車、町内で作っている人たちの山車があって、その山車組の人達が集まると批判になるわけです。お金を払って作っているだけじゃないかと。町内に子どもがないから、市の職員の方々の子どもさんとか、市の職員が山車に手伝いについて欲しいという意見を全部協会側は言われている。

そういう中で、もしこの中に三社大祭が入っているのだとすると、後継者の育成だとか山車を作る人の問題など、そういう部分に全部絡んでしまうので、非常に危険だなとこれを読んでいて思いました。こういうふうに書いてしまうと、これは具体的になんですかと聞かれた時に、三社大祭も入ったり、えんぶりも入っていると、今どこも後継者がいない、どうするかと議論している中であまりにも抽象的すぎる。本来の議論をみなさんは知らないのだから、そこを抽象的に書いて流してしまうのはあまりいいことではないなと思います。

●会長

ショー化というか観光化しているというか、本当に生活に結びついた祭り事から少し観光的なものになって見せる化になっているから、やっぱりそうせざるを得ないということもあるんでしょうけども。これはいずれ本当にどこかで話し合いをする必要があるんでしょうね。

●●委員

期限が決まっているのでやらなければならない状態なんですが、こういう文章が表に出た時に質問されて三社大祭がここに入っていたりすると、そっちの議論はどうなっているんだとなると、実際何もないので、ここに書かれているのは危険かなと。

●事務局

それぞれ三社大祭とかえんぶりとか、基本方針1のほうにも、すべての市民が文化芸術を楽しむことができると書いてありますが、それぞれみんなこういう問題を抱えているわけです。ここに示していかなければならないだろうというのは、問題があるからそれを全部解決するという話ではなくて、すべてのことの問題を意識すれば、何も書く事がなくなります。書かないからだめだというのではなくて、民俗芸能にしても文化にしてもそれぞれが発展してほしいし、みんなが楽しむ対象となってほしいと思うんですが、そう思っているということも書けなくなってしまう。思っている

ことを口に出せないようなビジョンになってしまっはまずいだらうなど。いろいろな問題を抱えているのはわかっているけども、そこにまですべて入ることは無理だらうと思います。

●●委員

えんぶりは学校でもいろいろやっているので繋がっているんです。

●事務局

それはやれることをみんなで一生懸命やっているからそういうふうな形ができていると思います。三社大祭は観光の方で煽ったからこんな山車が大きくなったんじゃないかということもありますが、小さくするためにそちらの支援もしているんです。

●●委員

そうすると、言われるのが、なんで市の互助会の山車は小さくしないんだということですか。

●事務局

小さくなってないですか。

●●委員

なってないです。補助金も使ってないから、なっていないと思うんですが。そういう議論をしたいわけじゃなくて、今の山車というのは、作っている人達にとって、大きい山車を作ってみんなにみてもらうのが目的なんですよ。大きい山車を作りたいと言っているわけで、後継者の育成で審査を辞めまうと言ったら、作るのを辞めまうと言われたんです。そういうふうに言われると、審査をやめられなくなるんですよ。継承者の育成について、目的を全員共通にするために、今から山車組の人達と順番に話し合いをするのですが、次世代に受け継ぐ継承者というのは、みんなが思っているのと作っている側は目的が全然違うというのがわかってきたので、同じ継承者でもえんぶりと三社大祭ではきっと違うなど。それが一緒くただと問題が出てきてしまいそうだなということでした。

●事務局

一緒くたにするつもりはないです。それぞれの問題を俯瞰してこれからどういうふうにしていけばいいのかというビジョンになると思います。

●会長

いずれにしても、今ある既存の文化を活用するという前提でやって、活用しなくなればそれはもう遺産だから。今までのものがたくさん遺産として残るわけですよ。そのくらいの気持ちで、要するに、必要とされなくなったら当然どうしようもないわけですよ。ただ八戸市としては、税金を使ってでもこれだけはずっと残し続けるというポリシーを持つか持たないかというぐらいで、ショー化し、観光化し云々というのは、代わりのものがひよっしたらできるかもしれないし、そう

すると規模は小さくて生活の中にそういうものは根付かせようと原点に戻る可能性もありますよ。終わった途端に来年の山車をどうするかということは、普通、浅草でもなんでも考えていて、それは生活の中に入っているわけですよ。

いつの間にか観光云々となると、向こうで日本一の火祭のねぶたなんか最近見るとやっぱり大変ですよ。外に人が来ないとできないとか同じようなレベルで。野辺地の祇園だってそうじゃないですか。野辺地の高校生に手伝ってもらわないと運行できない。野辺地はむつのほうからいっぱい来ているわけですよ。夜間運行をやめようという、せつかくだから、という話になる。だからどこも同じようなことを抱えているのかなど。そうするとやっぱり下火になった時にもう一回原点に戻って、なんでこういう祭りとかできてきたのかなど考えるところに来ているんだと思うんですよ。具体的に人口が減っていますから。

とりあえずビジョンは、僕は、割と大きくほらを吹いてというか、そういう感じにしておいて、多文化だから排除の論理で書くのが一番良くないと思います。なんでもビジョンだから、寛容な形でやっておくと、それに耐えられるような新しいものがどんどん生まれていく。問題は柱を決めたい。そこを決めておけば、その柱が伝統芸能の中ではどれ、祭りではどれ、みたいなのがあれば創作ダンスがあっても構わないし、あるいはコラボしても構わないんじゃないかなという感じがします。そういう時にやっぱり舞台というか拠点がどうしても館とフィールドが必要ですね。それが南郷が一番フィールド的には面白いじゃないですか。いろんな実験をやっても、誰がしかるわけじゃないから。だから南郷の取組みをどんどん外へ発信していろんな人が来るようにする。館はやっぱり公民館とか公会堂が必要ですから。これはこれで独自のものをやっていく。排除の論理さえやめればそこそこ。どうですかね、そのへんは。一番困るのは、文化ってこうなっちゃう。そのへんで家訓になるようなものを出してもらえれば。最後は人々の幸せに繋がる。ダンスとか人が集まってきた面白いですよね。人が集まる、行ったらなんか楽しくなる、そんな雰囲気を感じますもんね。

●●委員

若い人が楽しめるような、自分もやりたいと思わせるような、行きたいし、踊らなくても見たいと思わせるような華やかさがなければなかなか難しい。南郷のジャズもすごく聴きたいと思うんですが、遠くて行きにくいから、あっちでもやってこっちでもできればやって、大規模にやっているのが南郷だというように宣伝していかないと。若い子は行けるかもしれませんが、すごい忙しい人が多いと思うので、近くなら行けるけども、南郷まではちょっとというところもあるので、できればリンクさせてやってほしいなと思います。

●会長

わがままな注文がありましたね。ピラミッドに行く時は行っちゃいますという感じですね。

お祭りは、アウトリーチで出前したところから駄目になったと言われています。やっぱり来てもらわなければ駄目だということですね。立ねぶたでもなんでもみんな持っていくんですよ。海外はともかく国内は動かすなってね。だから来なくなっただと。あとはやっぱり映像でしょう。テレビで見ちゃうからわざわざ行かなくてもいいとか。あとは付加価値をどうするか。ロケーションとか食べ物とか、猫でもいいですし、何かそういうものがないと観光は難しいですよ。自分た

ちが行かないのに人様に来てくれといってもなかなかね。

時間になってしまったので、最後に何かありますか。勝手なことをしゃべってましたから、事務局は大変ですが、いかがですか。

●●委員

アートのほうからみると、お祭りやえんぶりの後継者がいなくて衰退していくとすると、衰退していく面白さとか綺麗さ美しさとなってしまいます。文化と芸術というのをアートと一緒にして考えてしまうと観光とは結びつかない。アートのほうでは観光のことは何も考えないですから。南郷もすごく頑張っていいなと思うんですが、私たちにとって、ちょっと脱線しているなと思うところもあるんです。それを観光に結びつけようとする、観光は観光で、どうすれば人が来るかという専門家もいます。一時的に人を呼ぼうと思えば、その専門の人に頼めば来るようになると思いますね。ただ、地元で長くやっていくのは結構難しいのかなと思います。そうなった時には、一緒くたに考えないで、さっき会長がお話したみたいに、アートという消滅するものだから、文化や地域資源を活用してとなると一緒にならない。なかなか深い話し合いをして決めていかないと難しいと思います。

●●委員

言葉遣いに関して、文化と芸術は相反するところがあるので、これを一緒にさせられてもちょっと考えてしまうというところがあります。文化というのは、昔から古っぽく若い人は見向きもしないものもあるんですが、大切な地元の文化もあると思うし、芸術は、現在や将来をキャッチしていかなければ生まれないので、どちらかという、将来から見ると、今やっていることが古くなってきますし、将来をつかんでいかなければならないですから、今悪くても、面白かったとかすごい影響があったというものだと思います。だから、すごく時間差があることで、文化と芸術が一緒になったらちょっと困るなど違和感があるんです。芸術というのは相当アバンギャルドで、本当に質のいいものを出していけないとニーズがありませんが、文化は昔からあるものですから、結構経過するところがあっという間じゃないかなと思います。芸能という、生活に根ざしたものもあると思うので三者が合体できないと思います。それを一緒にしているような感じがあって、私は中途半端だなと思う部分もあります。芸術をどういう意味でつかっているのか。相当将来のものだと思います。文化というのは継承していくものだから、伝承して当然ですし、それを見せるためにはもう少しモダンに注目させていくようにやっていかなければ、古いものになっていく。あとはアピールの仕方とかあればあそこのものだったと言わせるようなものじゃなければビジョンにならない。

●会長

わかりました。文化に芸術的な視点、エッセンスを加えてね。だから、例えば、今までありえなかった国立なんか美術館で例の規制緩和が取れたら車の展示をできるとかね。多様なことをやったりさっき言った排除の論理じゃなくてできるような、またそういう人材が育ってくるのを掴まなようにすることが大事ですね。また一方で、担い手として頑なに職人の世界じゃないですけど、ある部分だけを守り続けるというのをどこかでやっておかないとそれはある種のルーツ、八戸で生

まれて八戸で育ったというものをどこかに染み付いておかないとまずい部分もあるかなという教育的な、保守的な考えはありますが。でもやっぱりそれにこだわっていると時代が変わると廃れていく可能性がある。そこに攻撃的な芸術的なアーティスティックな視点を加える、あとはそれを排除しないというような多文化の思想とか哲学というか、そんなものがあるとちょっと八戸は違うかもしれない。おっしゃったように視点を変えるということですよ。新しいライトの当て方とか場所を変えるとかということだと思んですが。

時間になりましたので、そんな感じで拾ったのを少しまたまとめていただいて、やっていけば。いかがですかね。大変だと思いますが。

●事務局

ありがとうございました。委員の皆様からご意見をいただきましたので、検討させていただきます。こちらの案にできるだけ反映させていきたいと思っております。またまとまりましたら、またご相談させていただきます。

以上で、本日の多文化都市八戸推進懇談会を終了させていただきます。お忙しいところ、ありがとうございました。